第二回 LaMer共同利用研究集会

遺伝子汚染の新しい視点：
環境中の抗菌剤耐性菌・耐性遺伝子の動態解明とそのリスク評価へむけて

2016.7.27 水 9:00-18:00

場所： 愛媛大学 校友会館２階サロン

趣旨：現在世界的な問題になっている多剤耐性菌の対策では，これまで人・獣医療の分野で考えられてきた．しかし，近年環境細菌群集が耐性遺伝子の大きなリザーバとなっていることが明らかになってきた．本フォーラムでは，環境に潜伏する多剤耐性遺伝子の定量的議論を行い，遺伝子動態の可視化等の最新研究の発表と議論を行う．さらに出口目標としての「環境の遺伝子汚染のリスク評価」を行うことを目指した研究チームの形成を目的とする．

セッション1．耐性菌・遺伝子の動態（9:00−10:50）

1）鈴木　聡（愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授）
　薬剤耐性遺伝子の水圏環境での残存機構と人への暴露リスク評価：総論と研究チームのコンセプト

2）渡部　徹（山形大学農学部教授）
　チャオプラヤ流域における大腸菌が有する薬剤耐性遺伝子の地理的分布

3）杉本侑大（愛媛大学大学院農学研究科修士課程）
　新規マクロライド耐性クラスター遺伝子のアジア水圏環境からの検出

4）Bien Thi Lan Thanh（愛媛大学大学院連合農学研究科博士課程）
　Release of multi-drug resistance plasmid from bacteria under coexistence of predators

セッション2．ゲノミクス・エピゲノミクス（11:00−12:10）

5）丸山史人（京都大学大学院医学系研究科准教授）
　ビブリオジェクト―地球規模での水の衛生微生物学的安全性を保証する―

6）大田篤（京都大学大学院医学系研究科博士課程）
　細菌の抗生物質耐性とメチローム相互作用解明に向けた外因性メチラーゼの網羅的解析

セッション3．バイオフィルム（14:30−15:30）

7）野村暢彦（筑波大学大学院環境生命科学研究科教授）
　バイオフィルムにおける細胞多様性

8）遠矢正城（筑波大学大学院環境生命科学研究科修士課程）
　生息環境によって異なる緑膿菌の微生物間コミュニケーション機構

セッション4．モデリング（15:30−16:00）

9）金谷祐里（山形大学大学院農学研究科修士課程）
　薬剤耐性菌による健康被害の評価のための用量反応モデル開発―皮膚病を例に

特別講演（16:15−17:15）

Dr. Rustam Aminov (Senior Researcher, Technical University of Denmark)
Coping with antibiotic resistance: alternatives to antibiotic treatment.

ほかにポスター発表があります。聴講は無料です。

主催：愛媛大学共同利用共同研究拠点（化学汚染・沿岸環境研究拠点）

EHIME UNIVERSITY LaMer Leading Academia in Marine and Environment Pollution Research

問合わせ先：
京都大学・丸山史人（maruyama.fumito.5e@kyoto-u.ac.jp）
愛媛大学・鈴木　聡（ssuzuki@ehime-u.ac.jp）